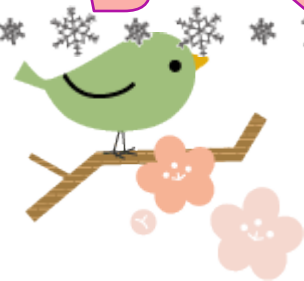


オアシスだより 第7号

平成24年1月4日発行



熱傷

本格的な寒さがやってきました。ストーブなどを使い始めると増えてくるのがやけど。やけどは医学用語では熱傷(ねっしょう)といい、通常は火、熱湯、蒸気などの熱が原因で発生しますが、低温熱傷や、化学薬品によるやけども含まれます。今回は、この熱傷についてのお話です。

原因

小児では熱い液体に触れておこることが最も多く、沸騰したやかんのお湯、熱い味噌汁、カップラーメンが皮膚にかかったりしておきます。その他、熱い風呂に落ちたり、アイロンやストーブに触って発生することもあります。熱傷は高齢者にも多く見られ、特に注意が必要なのは、湯たんぽやカイロなどそれほど熱くないものに、同じ場所が長時間接触しているとおこる「低温熱傷」で、温度は低くても重症のやけどをきたすことがあります。炎による熱傷としては、コンロの火や火事によるものがあります。

症状

熱傷の範囲が狭く、軽度のものであれば、皮膚症状(赤くなったり、腫れたり、痛み)のみで数日で治りますが、範囲が広がったり、深い場合は、皮膚症状のほかに、血圧が下がるなどのショック症状が出現することがあります。火災などでは、吸い込んだ煙によって、鼻や口、喉、気管の粘膜が腫れて呼吸ができなくなる(気道閉塞)ことがあり、緊急に治療が必要です。

分類

皮膚のどの深さまで損傷されているかで、第1度～第3度熱傷に分類され、それぞれ症状や治療法が変わってきます。第3度熱傷になると、痛みを感じる神経も障害されるため、痛みは感じなくなります。第2度熱傷はさらに浅い場合と深い場合(浅達性と深達性)に分けられることがあります。

熱傷の程度	深さ	症状	治り方
第1度	表皮	痛み・熱感	数日で治る
第2度	真皮	強い痛み・灼熱感	1～4週間で治る
第3度	皮下組織以下	痛みなし・脱毛	植皮が必要

治療

熱傷の深さと広がりによって治療は変わってきますが、体の表面だけのやけどの場合は、すぐに水で15～20分間冷やします。貯めた水より、水道から流している水の方が、冷却効果が強いとされています。皮膚というバリアー損傷されて、細菌感染をおこしやすくなるため、熱傷治療の基本は感染予防です。そのため、水ぶくれ(水疱)ができる第2度熱傷では、なるべく水疱を破らない方が良いでしょう。

比較的軽いやけどの場合、病院を受診するかどうか迷うこともあるかも知れません。痛みが強い時や、水疱ができている時は病院を受診されるとよいでしょう。



オアシス外科院長
川野 克則



部署紹介・その6 オアシス外科

オアシス外科はオアシスグループの外科診療施設で、病床数 19 床のクリニックです。

川野院長をはじめ、スタッフ 11 名、ベテランがそろっています。

消化器の病気、一般外傷
交通事故や労災

船員健診や一般健診

胃内視鏡検査、腹部や乳腺エコー検査

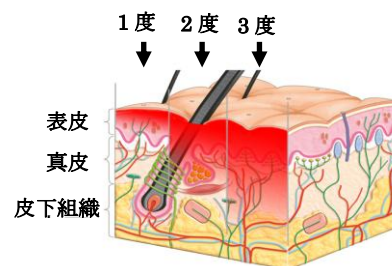
縫合は美容整形並みです

グループホーム菜の花、オアシスホーム
の診療も担当しています



患者さんにもご家族にも安心のやさしい医療をめざし、コミュニケーションを大切にわかりやすい説明、相談しやすい環境を心がけています。

オアシス外科主任
合澤 美春



お問い合わせ
医療法人善昭会

オアシス第一病院

〒870-0103 大分市東鶴崎3丁目3-19

電話 097-527-2211 Fax 097-522-0511

